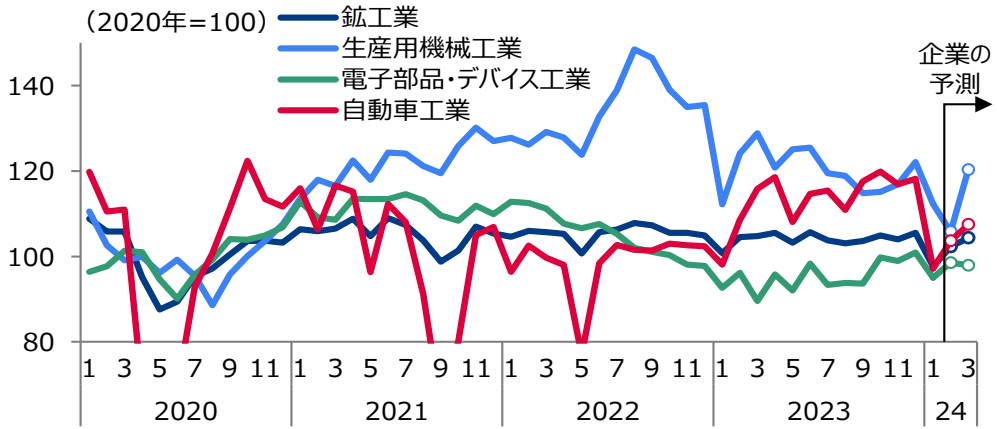
日本

鉱工業指数（2024年1月）

生産はコロナ禍以来の低水準、自動車工業を中心に大幅に低下

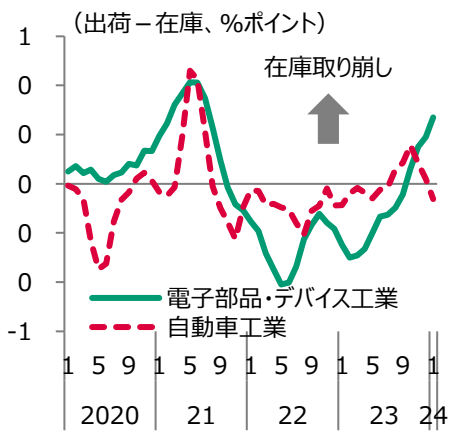
政策・経済センター
北川諒
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数（業種別）



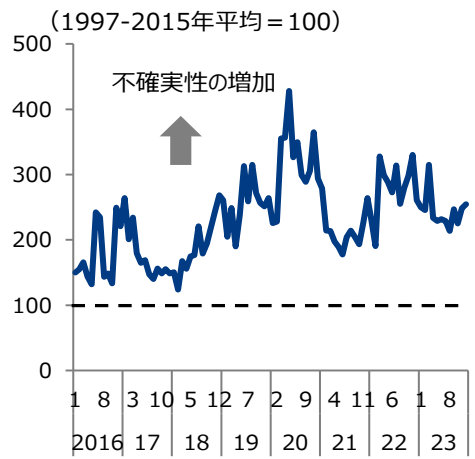
注：企業の予測について、鉱工業は製造工業、自動車工業は輸送機械工業の生産予測指数を接続。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」より三菱総合研究所作成

2 出荷・在庫バランス



注：出荷指数前年比－在庫指数前年比の3ヶ月平均。
出所：経済産業省「鉱工業指数」より三菱総合研究所作成

3 経済政策不確実性指数（世界）



注：直近は23年12月。21カ国の指数のドル建て（時価）GDP ウェイトによる加重平均。
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 1月の鉱工業生産指数（季調値）は、前月比▲7.5%と大幅に低下し、コロナ禍の20年5月以来の低さとなった（図表1）。
- 業種別には、自動車工業（前月比▲17.8%）や生産用機械工業（同▲8.0%）をはじめ15業種中14業種で低下した。自動車認証不正問題に伴う個別メーカーの生産・出荷停止や、能登半島地震の被災地での工場稼働停止を受けた生産調整の影響が出ているとみられる。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、自動車認証不正問題や能登半島地震の影響を受け、20年5月以来の水準に低下した。1月の経済産業省の基調判断は「一進一退ながら弱含み」に引き下げられた。
- 先行きについては、持ち直しに向かうと予想する。製造工業生産予測調査によると、2月前月比+4.8%、3月同+2.0%と生産回復が見込まれている。被災地の代替生産に加え、①自動車の挽回生産や②半導体サイクルの好転に下支えされ、底堅い推移となるだろう。
- 自動車の国内新車販売台数の落ち込みは生産停止の影響が主因であり、米欧の販売台数は堅調に推移していることから、生産再開につれて国内・国外向けともに自動車生産は緩やかに回復軌道に復するとみる。また、出荷・在庫バランスをみると、電子部品・デバイス工業は23年秋にはプラス圏に転じるなど在庫調整が進展しており（図表2）、生産は持ち直すとみられる。WSTS（世界半導体市場統計）によると、24年の世界半導体市場は生成AI関連をはじめ電子機器全般の需要回復を背景に前年比＋13.1%の伸びが予測されている。
- 生産の下方リスクとして、海外経済の不確実性の高まりが挙げられる。世界の経済政策不確実性指数は過去と比較して高い水準にある（図表3）。米国の保護主義の強まりや中国経済の減速をめぐる懸念から不確実性が一層高まれば、企業の投資行動の慎重化を通じて生産活動の停滞を招く可能性がある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.